

グッドニュース「共用プールを救う方法」

事故以来「マーフィーの法則：おきて欲しくないことは起きる」に負け続けていて、最後に1回勝ちました。今回も勝てそうです。

第1案

- 1) 共用プールは、水が蒸発するまで1ヶ月ある。しかし、1/2/3/4号機の放射線が高ければ工事ができない。
- 2) 4号機燃料プールの燃料は崩壊している。恐らく、プールの底に燃料ペレットの約30cm層が出来ている。あるいは、燃料(UO₂)は1000度以上ではUO₃になり、粉末化するので、粉末形状の層かも知れない。いずれにせよ、揮発し易い元素は既に飛んでいて、U, Puは殆ど飛ばない。また、核爆発(臨界事故)も水蒸気爆発も起きないので、爆発がない限り、余り飛散しない。
- 3) 放射能(放射性物質)の飛散は少なく、防護服で防げる。
- 4) 燃料から直接出ているのはガンマ線だけで、これは土嚢や水で防げる(1mか2mかは不明)。ただ、スカイシャイン(空から跳ね返るガンマ線)があるので、塹壕では足りない。塹壕に屋根を付けるか、トンネルを掘る必要がある。
- 5) 原子炉建屋か、共用プールのどこかに、屋外消火栓と消火槽があるはず。ここに電源を繋いで、塹壕の中をホースで送水し、きれいな水(上水道)を共用プールに送る。
- 6) 消火槽の水は、タンク車で他から給水して補給し続ける。友人の元消防署長の話ではどこの消防署でもできるはず、とのこと。
- 7) 上水道は、塩素の無いものが望ましい(理由は下記)

第2案:

- 1) 海岸側に屋根付き塹壕、またはトンネルを掘る。
- 2) 海水取水ポンプと熱交換器を設置し、循環系を共用プールにつなぎ、共用プール水(純水)のみを共用プールに循環させる。この工事は急がない。1ヵ月後でも良い。
- 3) 急ぐのは塹壕(または)トンネル工事のみ。

第3案(良くない案):

- 1) 海水を共用プールに直接送り込む。

2) 燃料被覆管（ジルカロイ）は、海水で腐食するが、1年位は持ちそう。（被覆管厚さは約1mmで、NaCl中で腐食するが、1年に0.1mm程度）。

) 共用プールの内側はステンレスだが、溶接箇所には海水（塩素）が残ると、その内、割れてきて、水漏れする。巨大プールの壁面修理は不可能かも。

本案は、やるとしても、短期にすべき。

共用プールの位置：

3月17日撮影の写真では、下から1,2,3,4号機の順番で、4号機の西（写真では右側）50mの建物が共用プールの模様。プール容積：約4000m³。縦29m、横12m、深さ11m。



2011-3-19 6PM